

# 掛川城武家屋敷跡発掘調査現地説明会

平成11年6月13日  
掛川市教育委員会

## ◎はじめに

掛川市教育委員会では、新しく市立中央図書館を現在の市立図書館南側の文化センター跡地に建設することになったため、平成10年7月から平成11年6月末まで発掘調査を実施しています。

これまでに行われた掛川城関連の発掘調査としては、平成元～5年度の掛川城天守閣復元工事、平成5・6年度の大手門跡及び周辺区画整理、平成7年度の掛一小アル改築、平成8年度の二の丸美術館建設に伴うものなどがあります。

今回の発掘調査では、戦国時代から江戸時代末期までの遺構が重複して見つかり、多種多様の遺物が見つかりました。

## ①発掘調査の概要（江戸時代）

現在発掘調査をしている場所は、江戸時代前期に描かれた『正保城絵図』によると、大手門から掛川城や御殿に向かう道沿いに位置しています。この辺一帯には、掛川藩の家臣が住んでいた屋敷が立ち並んでいました。掛川藩主は11家26代も交代したので、この場所にあった武家屋敷が住んでいた家の具体的な名前は分かりませんが、藩主が掛川にいる時に生活していた御殿に近い場所であるため、側近の家の臣の屋敷跡ではないかと考えられます。

江戸時代の遺構は、井戸、ゴミ穴、建物の柱穴、建物の地盤を強化した根固め遺構などが見つかりました。これらの遺構は、砂利混じりの土で造成した面に掘られています。建物の柱穴は無数にあるため、今のところ武家屋敷がどのように建てられていたのかはわかりません。

## ②発掘調査の概要（戦国時代）

戦国時代の掛川には、戦国大名今川氏の家臣であった朝比奈氏がありました。当時の記録によれば、朝比奈泰朝が永正10(1513)年、近世掛川城の位置に中世掛川城を完成させたと考えられます。中世掛川城はその後も断続的に拡張工事を重ねたという記録が残っていますが、城や城下の様子は分かっていません。

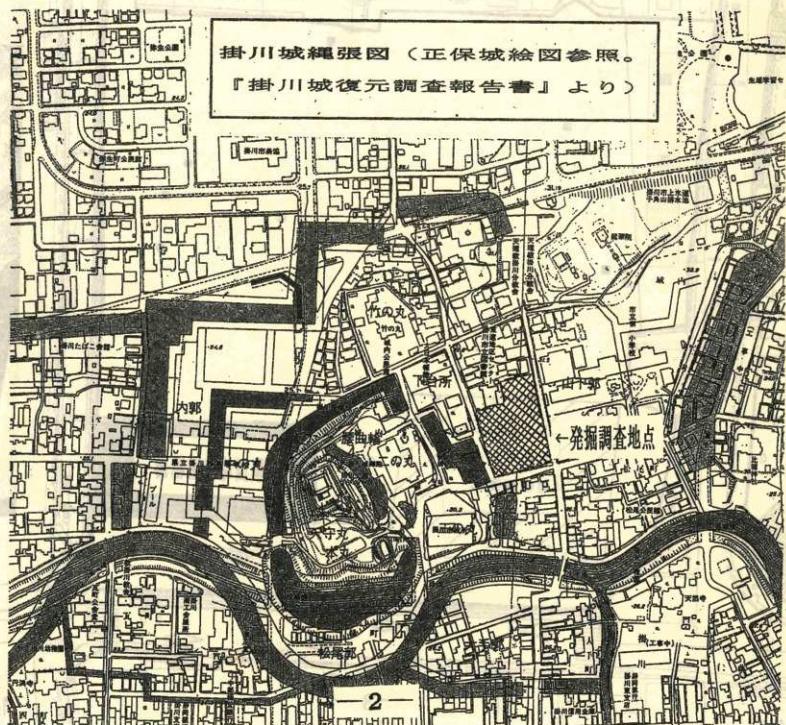
戦国時代の遺構は、主に発掘調査地内の南東角付近で検出されました。掘立柱建築跡と考えられる多数の柱穴の他に、石組みの井戸、ゴミ穴に使用された土坑、敷地を区画する溝などが見つかりました。戦国大名やその家臣は、普段は平地の居館で生活し、戦になると小高い山の上に築かれた城に籠りました。見つかった遺構・遺物から、この場所に居館があったのではないかと思われます。

## ③出土遺物について

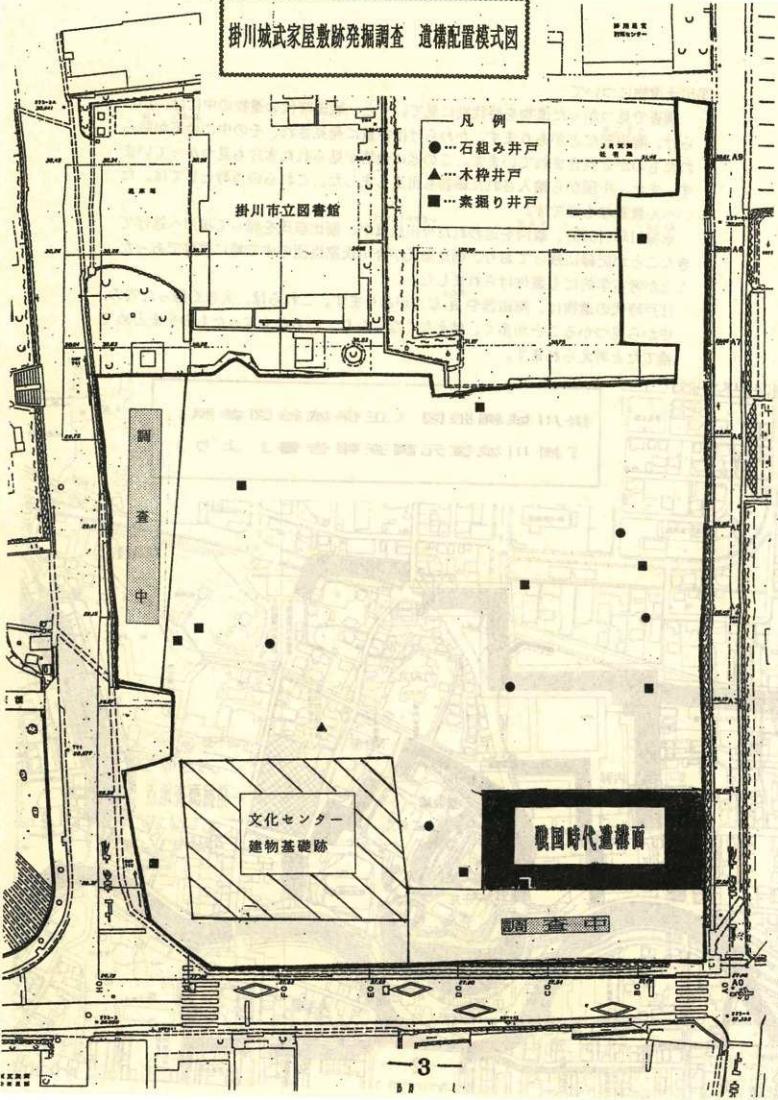
調査で見つかった遺物を時代別に見ていくと、戦国時代の遺物の中には、かわらけ、陶器などがあります。かわらけは多量に発見され、その中に金箔が貼られたものが2点含まれています。この他に金箔が貼られた木片も見つかっています。また、中国から輸入された磁器も出土しました。これらの当時としては、たいへん貴重なものです。

永禄11年(1568)、駿河を追われた今川氏真が、朝比奈氏を頼って掛川へ逃げてきたことが記録に残っており、朝比奈氏が今川氏家臣団の中で特に重要であったことが考古学的にも裏付けられました。

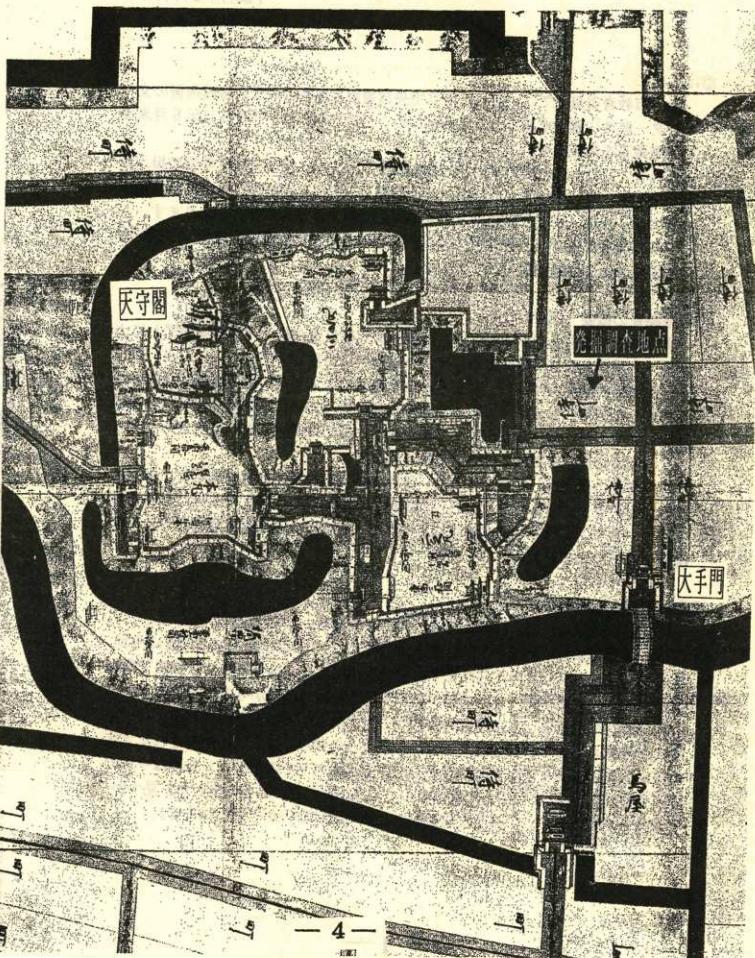
江戸時代の遺物は、陶器や瓦などがあります。これらは、大きく掘った穴の中から見つかることが多く、使えなくなったり、いらなくなつたものをまとめて捨てたと考えられます。



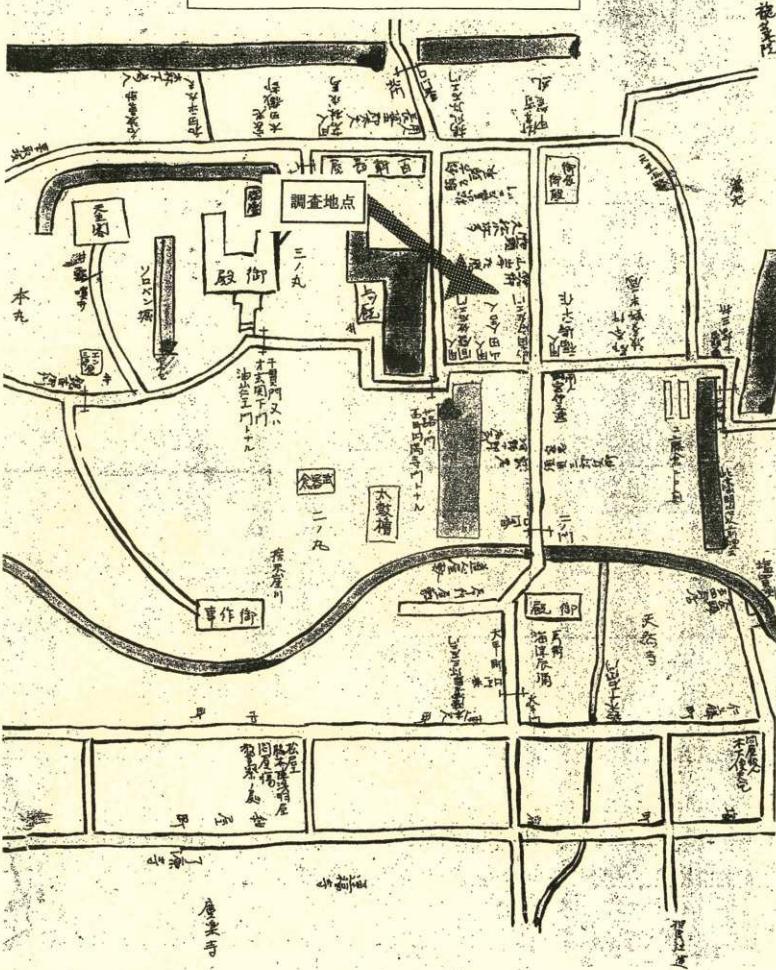
掛川城武家屋敷跡発掘調査 遺構配置模式図



『正保城絵図』(部分)



### 藩士屋敷配置図（部分）



用入

江戸と国許にあり、家老、奉行から藩主に対して上申する事柄を聴取する職掌で、家老より下々へ、下々から家老への取次ぎ、公儀に対する諸作法・政務・他家・他藩に対する事務・贈答・音信・交通その他すべての公用・布達・届書等の処理を司った。

もの がしら 頭

「もの」とは物具すなわち武器の意で、その頭をさすといい、また弓の者・槍の者・鉄砲の者など、「者」の頭のことともいう。いわゆる足輕大将。

まかないがた

領内から納められる年貢米の管理や、藩内の經理事務など帳簿付けを司った人。

前ページの藤土屋敷配置図は、明治時代以降に古老人の記憶をもとに作成したもので、江戸時代末期の屋敷配置をあらわしたものです。

ここにみえる人物は、『幕末掛川藩江戸藩邸日記』（奈倉有子編、清文堂刊）でてきます。この『幕末掛川藩江戸藩邸日記』は、掛川藩士渡辺嘉彰の日記で、江戸藩邸のできごとが中心に記されています。

『幕末掛川藩江戸藩邸日記』の注記をもとに、この中央図書館建設地に巣敷を構えた人物を紹介します。

真壁佐左衛門 …… 仲次郎。天保13年2月家督250石を相続、馬廻に召し出された。弘化2年御使番。嘉永3年正月大目付となる。安政元年12月物頭となり、弓組預り。同3年9月組頭御免、取次加り勤め、万延元年正月本役および鉄砲組預り。父佐左衛門(仲)、祖父佐左衛門とも取次。

山田舎人……伝四郎、嘉永6年馬廻に召し出され、安政2年正月取次になる。同6年12月側用人、御用人見習、文久2年正月御用人本役。父舎人（権七郎）は御用庶見習いで嘉永5年死去。家督500石。その父舎人、宇右衛門は年寄役。

山角運平……慶応2年9月に嘉善と改名。父と思われる嘉善は天保7年正月馬廻に召し出され、格式大目付となり安政5年に死去。その父甚内（嘉善）は文久元年格式旗奉行となっている。

赤岸兵蔵……嘉永5年11月馬廻に召し抱えられ20人扶持を与えられる。槍術師範となり同6年2月掛川勝手となる。

久松小弥太 ..... 金五郎。安政元年正月馬廻に召し出され、同2年2月使番となる。  
同3年7月分認。同5年8月大目付。父小一右衛門は御用人、100石。

松山嘉左衛門 …… 文久元年12月格式右筆、役料年々金三両づつを与えられた。明治3年名簿には30俵3人扶持とある。

